

～米国マサチューセッツ州コンコード町を訪問して～

総務部政策推進課長 杉原 太

平成7年から始まった中高生海外交流研修も今年で21回を迎え、10月28日から11月7日までの11日間の行程で、中学生5名、高校生3名、引率教諭1名、若手農業後継者3名、役場から国際交流員1名と私の総勢14名でコンコード町の皆さんとの交流を通じ、アメリカの生活や文化を体験するとともに、西洋式農業の指導者クラーク博士やホイラー博士のふるさとマサチューセッツ州の農業を視察研修させていただきました。

これまで20年間の中高生海外交流研修の歩みの中で、この事業を経験されて社会人として巣立った生徒の中には、この貴重な経験を糧として世界でご活躍されている方もおります。

人生において、生涯で多くの経験をする事、世界観を実感できるということは、何事にも変えられない価値があると思いますし、そのチャンスを生かすための意欲も必要だと思います。そういう意味では、この度の研修に積極的に参加された中高生や若手農業後継者の皆さんの志に敬意を表するとともに、今後の七飯町の明るい未来が期待されます。

出発に先立ち私たち訪問団は、8月から出発直前の10月まで5回に渡る事前研修で七飯町の歴史や西洋式農業、大沼国定公園を中心とする恵まれた自然環境、コンコード町と七飯町のこれまでの交流の歴史などを学びました。

特に日本の西洋式農業発祥の地が七飯町であるということ。既にご存知だと思いますが、マサチューセッツ州出身のクラーク博士、そしてコンコード町出身のホイラー博士（札幌時計台の設計者）の指導により、日本の農業試験場「七重官園」で西洋式農法が実験研究されていたということです。

明治初期から七飯町とマサチューセッツ州、そしてコンコード町出身の方々と既に交流がされていたという縁があったということです。

コンコード町は、アメリカの独立戦争勃発の地で、アメリカ発祥の地として有名ですが、そんな歴史的な町と七飯町が140年も前から結ばれていたことを知ったことにより、より一層コンコード町への興味が湧いてきました。出発の日、10月28日午前8時30分函館空港に訪問団が集合しました。函館空港を出発して成田空港で飛行機



新しくなったCCHS

を乗り継ぎ、ボストンローガン空港に到着したのは午後7時頃です。ボストンローガン空港では、トムさん、リーさん、ジュンコさんらが黄色いスクールバスで「ようこそコンコードへ」と書かれた横断幕を掲げて私たちを温かく迎えてくれました。コンコード町との交流がこんなにも自然にできるなんて、七飯町の諸先輩たちがこれまで築いてきた交流事業の成果を肌で実感いたしました。

空港からコンコードまでは迎いのスクールバスで夜のボストン市街を抜けて高速道路で約40分のドライブです。

コンコード・カーライル高校（CCHS）には、午後8時頃に到着しました。

ここでは、私たちを受け入れてくれたホストファミリーの皆さんとスタッフが新築されたCCHSのメインロビーを風船等で飾り付け、横断幕を持って歓迎してくださいました。



CCHSでの対面歓迎式

ちょっとした手料理なども用意され、アットホームな感じの対面歓迎式となりました。ここで七飯町の訪問団はそれぞれのホストファミリーの元へと別れて、アメリカでのホームステイの始まりです。

アメリカはサマータイムで日本よりマイナス13時間の時差ですから、この時点で、日本時間にすると29日午前7時となり、28日の午前8時から移動に丸1日かかったこととなります。それでも、国境を越えて親しい友人と交流できる楽しみ

は長旅の疲れなど感じないほど、気持ちが昂るばかりです。

さあ、今日からホームステイです。私のホストファミリーは、大学講師のジョンさんと建築家のホリーさんご夫妻、クラッツリーファミリーです。

6月に七飯町でお会いしていましたので、英語は片言、単語のつなぎ合せですが、笑顔と身振りでなんとなく通じ合うことができました。



クラッツリーさんご夫妻

コンコード町での研修では、中高

校生8名と七飯中学校の鈴木先生がCCHSでの交流授業を体験しました。

私と若手農業後継者3名は、事前に希望していたコンコード町の農業施設や直売

所など、現在のコンコード町の農業を中心として研修させていただきました。

はじめにオーガニック農法を取り入れているクラークファームを訪問させていただきましたが、そこはオーガニック農法に賛同する消費者が出資して経営している農場となっており、直売所が併設され、収穫期には出資会員が直売所で決められた種類の野菜を決められた数だけマイバックに詰めて持ち帰るというシステムになっていました。

今、アメリカでも特にマサチューセッツ州の農業は、農地を持っている人と農業を始めたい人が違って、農業を始めたくとも土地を確保するのが難しく、その対策として、コンコード町が農地を所有し、公共的な農地を就農希望の方に借地して農業を継続するという形をとっていました。農地を持っているが後継者がいない場合など、公共的に農地の管理をすることで、新規就農の機会を支援するというものです。

コンコード町の皆さんは農業に対して、環境問題と安全安心な食料確保を考えており、自然環境の保全と、食の安全を追求する姿勢は私たち北海道七飯町民と同じ考え方であると思いました。



クラークファームの直売所



ヴェリルファームの直売所

しかしながら、私たちより進んでいる点は、農地を個人に任せただけでなく、公共が自らの施策として後継者に悩む農家にも公共的借地農地という手法を編み出しているということです。アメリカの農業はカルフォルニアに代表されるような途方もないくらいの大規模農業というイメージですが、州によっては、日本に近い所もあると気づかされました。マサチューセッツ州は小さな州で、

ボストンという大きな都市のベッドタウン、就業状況ではサービス業、公務員、卸売業の3次産業が約90パーセントを占め、その多くがボストンに勤務しているということです。自然環境を保全し安全安心な食料を生産するオーガニック農法による農業に対するステータスは高いものとなっております。

私たちは、クラークファームの他にも「A Guido to Concord Farms」というリーフ

レットを資料に4か所のコンコード町内の農場を視察しました。

その中でもヴェリルファームでは、農作物と酪農をしながら直売所を経営し、しかもその直売所には、お惣菜やパン、ケーキなどの工場も併設され、日本でいう6次化産業が既にビジネスとして根付いておりました。社長曰く、今の家庭はほとんど共稼ぎで夫婦が働いているので、晩御飯のおかず、お惣菜が一番の売れ筋だそうです。

夕方の時間帯に訪問させていただきましたが、郊外にある農場の直売所ですが次々と駐車場に車が入って来ていました。



ヴェリルファームのお惣菜工場

視察研修の感想として、これからの七飯町の農業も1次産品の出荷から2次加工、営業販売の3次産業、そして一貫した6次化産業へと付加価値を付けた強い農業へと進化することが期待されます。そして、そのことが地域にマッチする企業誘致、起業促進、雇用創出につながるアイデアであるとコンコード町の皆さんに教えていただき感謝です。

そして、コンコード町の町並みについてです。自然の木々が目立ち、電信柱も住宅街では木柱となっていて街路樹と調和して目立ちませんし、繁華街、町の中心部では、電線の地中化によって電柱はありません。そして、とにかく信号機が少なく、町の中心地に近づいても信号機が見当たりません。

これで交通事故は起きないのかなと思っていると、横断歩道の手前で止まって、歩行者を渡してから再び走り出します。

また、十字路交差点はありません。交差点は、日本でも今年9月から制度化されましたが、ラウンドアバウトという円形のロータリー方式となっています。他の車の様子を見て止まり譲り合いながら進入するなど、運転マナーの良さに感心しました。

信号機が無いことで、歴史的な町並みが自然に調和し「コンコード＝調和」という意味が深く心に響きました。

次にコンコード町の著名な場所です。若草物語の舞台ルイザ・メイ・オールコットの家が保存されていました。また、オールドノースブリッジ、ウォールデンpondなど、どれも自然と調和した歴史的なたたずまいを醸し出しています。

生活において決して歴史や自然に逆らわない、自然に溶け込む姿勢が成熟したコンコード町の「まちづくり」に感心するばかりです。

31日土曜日には、ウエストコンコードの高齢者福祉施設でポットラックパーティーを開催していただきましたが、ホストファミリーの皆さんの手作りによる料理と

ともに恒例となっているイカ踊りを参加者全員で踊りました。言葉だけでなく身体ごと使った日本の輪踊りはみんなを夢中にさせて大変盛り上がりました。

コンコード町でのホームステイもあっという間に過ぎて行きましたが、ホストファミリーのクラッツリーさんには、高校生になる孫娘さんの女子サッカーの試合観戦やコーラスのコンサートなど、普段体験できないアメリカでの日常生活を家族同様に連れて行っていただき、おじいちゃんおばあちゃんの孫に対する愛情の深さは日本の周りにおじいちゃん、おばあちゃんとちっとも変わらない、世界共通なんだということも知りました。食事の時なんかも家族そろって食卓に着き、お話をしながら食事をするなど、心豊かに落ち着ける環境をホームステイで体験させていただき、日本では、忙しくて食事が家族で別々になってきている家庭も増えていることを考えると、改めてコミュニケーションと合わせた食事の大切さを認識しました。

そして、11月1日、この日は特別な日でした。マサチューセッツ州と北海道の姉妹州提携25年ということで、午後3時よりCCHSのコンサートホールでHokkaido Pioneersと冠した記念コンサートが開催され、トムさんが作詞した姉妹州25年を記念した曲「Hokkaido Pioneers」(北海道の開拓者たち)がCCHSコンサートバンドによって披露されました。演奏後には、会場中がスタンディングオベーションで拍手の渦となりました。



CCHSコンサートバンド

コンコード町で過ごした6日間は、見るもの聞くものが新鮮で刺激となり、心身ともに発想の転換と心が大きくなったと思います。

そんなアメリカの中でも歴史的なコンコード町と七飯町との姉妹都市交流、そしてマサチューセッツ州と北海道の姉妹州が末永く続いていることに、感慨深く思うとともに両町、両州(道)の明治時代からの連携協力関係と将来へ向けた交流、連携施策の重要性を認識しました。

11月4日、コンコード町の多くの皆さんに見送られ私たちはニューヨークへと向かいました。一般的にアメリカの東部まで行くという機会は限られることです。世界の金融や経済がグローバルになっている今、世界の中心であるニューヨークを見ることは、特に中高校生にとって貴重な経験であると考え、今回からニューヨーク視察研修も復活しました。

ニューヨークではウォール街、マンハッタン、タイムズスクエア、セントラルパーク、自由の女神、グランド・ゼロ、国連本部など視察しました。



ニューヨークタイムズスクエア

終わりに、コンコード町でのホームステイやニューヨークの視察研修は、世界の広さを感じるものとなりました。ホームステイという貴重な体験をさせていただいたトム・カーティンさんをリーダーとするコンコード町の皆さんの心遣いとその温かさは一生忘れることはありません。そして、コンコード町の皆様に感謝すると共に、この度の訪問にあたり様々な形でご協力

くださいました各中学校並びに七飯高等学校、地域、参加者の保護者の皆様に厚くお礼申し上げます。